



# Leading Edge



## Greeting

九州では初雪が降ったそうです。東京でも初雪が降るのではないかといいくらい冷え込む時期になりました。Japan Airboat Association 季節報の第7弾です！今シーズンは、エアボート協会が関わるイベントが2つ開催され、エアボートの知名度向上を図ることが出来ました。また、9月には鬼怒川氾濫によるエアボートでの救助活動を行い、世間の注目を集めました。秋号の発行が遅れてしまいましたが、今号は、Airboat Tips をお休みさせて頂き、実際に救助活動を行った JAA 会長佐々木の体験談を会員の皆様へお届けいたします。

## Contents

1. 会長挨拶
2. 協会の目的
3. 活動報告
4. DIS-REC はまなこ災害対策展について
5. JAA Meeting - Summer 2015 in Lake Inawashiro
6. 関東・東北豪雨 エアボート救助活動
7. 今後の予定
1. 会長挨拶

舗道に落葉が散る頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？今夏もエアボートを体感していただくためのイベントを開催し、多くの方々にエアボートの魅力を体感頂けたことと思います。また、社会のエアボートへの関心の高まりを感じる事が多くなり、大変嬉しく思っております。引き続きエアボート普及への取り組みに邁進してまいります。

## 2. 会の目的

Japan Airboat Association は「日本国内におけるエアボートの普及や安全管理」を目的としており、この目的を達成するために以下の5項目を柱に活動して参ります。

**Popularization:** 各種イベントの実施

**Safety:** 航行マナー講習、整備講習の実施

**Leisure:** レジャー用エアボートの提案

**Rescue:** 救助用エアボートの提案

**Volunteer:** エアボートによる地域貢献、災害時の救助活動の実施

## 3. 活動報告

7月：DIS-REC はまなこ防災対策展 参加

8月：JAA Meeting

Summer 2015 in Inawashiro

9月：鬼怒川救助活動

## 4. DIS-REC はまなこ災害対策展について

2015年7月4日(土)5日(日)に、はまなこ・むらくし海の駅こと浜名湖ボートクラブカナルにて全国初の「DIS-RECはまなこ災害対策展」プレ開催を行いました。



エアボートとフレッシュエアー佐々木 社長  
公・官・民が力を合わせ災害対策用の機材・システムを一同に集めて合同演習する活動のプ

レ開催です。

オープニングセレモニーには、衆議院議員、静岡県議会議員、浜松市議会議員が出席すると共に、各マスコミも取材に訪れるなど、水陸両用救助艇への注目の高さを感じることができました。

オープニングセレモニーの後は、三艘の災害レスキュー艇がそのパフォーマンスを披露しました。まずは会場であるカナルが既に装備するニュージーランド製水陸両用救助艇シーレッグスが来賓を乗せて試走、浜名湖の恵まれたフィールドで救助艇のパフォーマンスを発揮しました。自走してスロープから直接救助に向かい、また上陸することができるシーレッグスの実力を体験しました。



水陸両用救助艇シーレッグス

続いてヤマハジェット救難艇です。こちらは、震災などのがれき内走行も可能なジェット推進エンジン搭載救難艇です。

マリンジェットと同じジェット推進エンジンを採用しているこの救難艇は今までの救難艇(船外機とプロペラを採用したもの)と比較し、

浅瀬・岩場・ガレキ内走行を得意とするレスキューボートとして開発されています。



ヤマハジェット救難艇

続いて、いよいよ我がエアボートの出番です。フレッシュエア社製のエアボートがデモ走行を行い、浅瀬や陸も滑走できる高い機動性を披露しました。デモ走行後、希望者を対象に試乗を行い、救助艇の乗り心地を体感していただきました。



2日間に渡る催しは、あいにくの天気でしたが、メディアを通じて情報が発信されると共に、来場者の方々に、実際のエアボートの走りを観て体感して頂けました。今後もこの様なイベントを通してエアボートの有用性を世間に広めていきたいと思っております。

## 5. JAA Meeting - Summer 2015 in Lake Inawashiro

2015年8月22日と23日の2日間、猪苗代湖にてJAA Meeting - Summer 2015 in Lake Inawashiroを開催し、約30名の参加者にお集まりいただきました。当日は天候が心配されましたが、大きな天気崩れも無く、予定通り実施できました。

初日は猪苗代湖中田浜付近にて、エアボートの試乗会はもちろんの事、ジェットスキーや浜遊びで楽しんでいただいた後、フレッシュエア猪苗代ベースでBBQを楽しみながら、参加者の親睦を深めて頂くことができました。



エアボートと一緒に集合写真

2日目は再度猪苗代湖にてお昼のBBQを食べながらエアボートの試乗を行いました。

この2日間を通して、参加者の方々にエアボートの迫力と魅力を体感して頂くと共に、エアボートでの繋がりを作って頂けたと思います。ご参加いただいた皆様、ご協力ありがとうございました！またのご参加をお待ちしております。

## 6. 関東・東北豪雨 エアボート救助活動

今回のAirboat Tipsはお休みさせて頂き、代わりに、平成27年9月 関東・東北豪雨での鬼

怒川堤防決壊による水害での救助活動報告を掲載させていただきます。

この救助活動は、JAA会長の佐々木が、自ら製造したエアボートで行われました。この救助活動が、どんな活動だったのか。その内容をご報告させていただきます。

### ～関東・東北豪雨 救助活動～

平成27年9月9日、日本海を北東に進む温帯低気圧に太平洋上から湿った暖かい空気が流れ込み、日本の東海上から日本列島に接近していた台風17号から吹き込む湿った風とぶつかったことで、線状降水帯が発生し、関東地方北部から東北地方南部を中心として24時間雨量が300ミリ以上の豪雨となり大規模な被害をもたらしました。



2015年9月10日、常総市の鬼怒川が決壊して、凄まじい濁流や、屋根にあがって救助を待つ人や、電柱にしがみついて救助を待つ人の姿をテレビで目にしたのは午後も深まった時刻でした。

今にも流されそうなおじいさんや浸水している住宅地を見て、

「エアボートがあればお役に立てることがあ

る！」

「エアボートでしかやれないことがある！」

「出動できるエアボートはこの1艇・・・」

「操船できる人間は僕一人・・・」

「ならば、僕が行くしかない！」

「僕が行かねば・・・」

気持ちが固まるまでに、それほど時間はかかりませんでした。

気が付けばエアボートを格納している山中湖ベースへ向かっていました。それでも横浜からいったん新宿へ戻って、そこから向かったので、着いたのは夜の7時を過ぎていました。

無線、拡声器、ロープなど必要なものを点検、エアボートをトラックに積み込み終えたのは21時頃でした。



山中湖ベース エアボート積み込み

その後、新宿・戸山ベースへ移動。夜間航行のための照明機器類を取り付けました。

作業を終えた23時頃、戸山ベースを出発しました。

被災地近くになると、いたるところで道路は冠水しており、あちこち迂回しながら通れる道を探しながら進みました。ナビ案内によれば、

とっくに到着している時刻なのに、どこも通行止め。どの道路がどれくらい冠水しているのかを尋ねても、刻々と状況が変化している中では、さっきまでは通れたけど今は分からないという返事が目立ちました。

ナビが示した到着時刻より1時間以上遅れて、午前1時過ぎに常総地方広域市町村圏事務組合消防署に到着。さっそく打ち合わせに入りました。消防署の指揮・命令の下で、安全に活動を行えるように、明るくなってから救助活動を始めましょう、ということになりました。焦る気持ちはあったものの、深夜時間でしたし、少し仮眠をとろうかと思っていたところ、なんと出動要請が入ってきました。

救助隊員が9. 9馬力の船外機付ボートに、2名の隊員が乗り込んで救助に向かったものの、川の流れに流されてしまい救助に行けなかったところがあるとのこと。途中には地面が小高くなって、ボートに乗ったままでは通れない踏切があるという、話を伺う限り、まさにエアボートしか行けそうにない所のようなのでした。

先導車の後ろを走りながら、エアボートを降ろす地点まで向かいました。停電で真っ暗でしたが、冠水した道路の水面が車のライトに照らされ、いたるところが冠水しているのが分かりました。早く救助を待っている人の元へ向かいたい！という焦った気持ちと、水没した住宅地や、真っ暗闇の濁流へ向かうという恐怖感も襲ってきました。今だから話せますが、山岳ラリードライバー経験者の私でも、この時ばかりは足が震えました。

エアボートを降ろして活動した主なエリア

は次の二つです。

・「アプローチ地点1」

国道354と県道357の交差点付近と活動エリアA（北水海道駅付近）

・「アプローチ地点2」

国道354と国道294の交差点付近と活動エリアB（茨城県きぬ看護専門学校付近）

アプローチ地点と救助活動エリア



まずアプローチ地点1からボートを降ろし、目的の家を確認。



目的地確認後、隊員2名と一緒に出発

水没した住宅地は、不気味なくらい静かでした。深夜3時過ぎの住宅地は人が居るのか居ないのかさえわかりません。濁った水の中で水深さえわかりません。唯一道路標識が足元に見えるので、おおよその見当がつくくらいです。

途中の踏切では、確かに小高くなって地面が見えていました。通常のボートなら下船して抱えて歩くしかない所ですが、そこはエアボートですから少しアクセルをふかせば問題なく通過できました。狭い路地を右や左に曲がりながら進まなければなりませんでしたが、信地旋回（移動せずに向きを変える）ができるくらい小回りが利くボートの性能に加え操船技術でそこはクリア。そしてまもなく川の本流に差し掛かりました。この地点は船外機付きのボートで渡れなかった場所です。ここは、流れがある水面や風が強い時に操船するクラビング行法で航行し川を渡りきりましたが、この流れは通常の河川の流れと同等レベルに感じました。もう、この時点では何の不安もなく早く助けたい気持ちでいっぱいになっていました。

住宅が沢山ありました。「この中の何処かに助けを求めている人が居るんだ。」そう思いながら暗闇の中を見渡すと、エアボートのエンジン音を聞いた人たちが窓を開け、ベランダに立ち「ここだ、ここだー！」と色んなものを手に持って振って知らせているのが見えました。今まで、エアボートの音はウィークポイントだと思っていたけれど、この音が聞こえたから「ここにいるよ！」と知らせてくれる人がいる。「助けに来てくれた！」と希望を持つ人がいる。そんな音なのだと感じました。

やっと要救助者の家に辿り着きました。低体温状態のようで搬送を急がなければなりません。戻るときは現在の位置や帰還ルートがほぼ頭に入っていたので、向かう時に比べて短時間でプラットホームまで戻ることができました。少しでも早く病院へ搬送できるように、隊員が待機している陸上までいっきに駆けあがり、隊員の方たちも足元を水につけることなく、要救助者を素早く下船させ病院搬送へと繋ぐことができました。



深夜の出勤

その後、アプローチ地点2へ移動し活動を再開しました。



空は明るくなってきていました。



このアプローチ地点2から救助エリアBまではかなり遠く、しばらく行くと、遠くに陸地が見えて、その先に平屋が見えました。でも近づいてみると陸地と思っていたのは水に浮いた瓦礫で、平屋に見えた家は2階部分でした。業務用の4枚ドアの大きな冷蔵庫やポリタンクなど、色んなものが浮いていて、初めはそれらをかき分けて進んでいたのですが、だんだん瓦礫の層が厚くなってかき分けられなくなった時、エアボートはその瓦礫の上に乗上げて進んで行くことができました。家族全員を救助した下船時、おばあちゃんに「音がうるさくてごめんね」と声をかけると、「なに言ってるの～、いい音じゃない」と答えてくださって、少し泣けてきました。



それからまた元のアプローチ地点1に戻って活動を開始。この頃には各方面から応援部隊が駆けつけており、陸空共に救助活動が始まっていました。

深夜の真っ暗闇の状況とは違い、水没した住宅地や標識がちゃんと見えたので、航行上の重い気持ちは少し軽くなりながら、エリアA辺りの救助活動を続けました。

昼近くになると、JAA副会長の村石も駆けつけて来ました。冠水した道路ばかりで、到着までに相当の時間を費やしました。水深が車のタイヤの半分以上もある水の中を進み、やっと活動中の現場に駆けつけてくれたのです。

早速、その時同乗していた隊員と交代し、村石と二人で救助活動を精力的に続けました。



日中は晴れ間が見えて、午後には水が少しずつ引き始めました。

船外機を搭載したボートで活動する隊員も沢山いましたが、水深が浅くなると隊員が水に入り、手押しでボートを移動させていました。



その横をエアボートが通るのですから、なるべく波を立てないように通り過ぎ、その後、エアボートの風が後ろから来る船に強く当たらないように注意しながら航行しました。

このような状況下では、エアボートの機動力、機敏性を十分に発揮することは難しくなります。

エアボートがもっと敏速に動けるように、現在のボートとエアボートでは救助のための基地は別々のエリアに設ける必要性を強く感じました。そうすることで、双方の利点を活かした救助活動が行えるであろうし、連携した救助活動が行えれば、隊員の安全を守りながら更に敏速な活動が行えるのではないかと感じました。

不眠不休で続けた救助活動は、自前で持ち込んだ燃料がなくなったことにより終了することになりました。携帯のバッテリー切れ、コンビニで買った水とおにぎりがなくなっても活動していましたが、燃料がないことには継続できません。

記録をまとめてみると、46人と犬1匹を救助していました。実働は8時間程度だったと思います。エアボート1艇に、パイロットと隊員1～2名が乗り込んでの救助活動ですから、と

ても効率良く救助できたのではないかと感じます。

この貴重な救助活動経験から、エアボートの機動力の高さをあらためて確信しました。水害時こそエアボートが必要なんだと。

災害は無いに越したことはありませんが、現実には、毎年のように日本のどこかで豪雨災害が発生しています。水害時に、エアボートが当たり前のよう活動できる日が来ますように、今後も啓蒙、普及活動に励みたいと思います。

最後に、救助活動を行うにあたり、株式会社近代消防社の三井社長に、多大なご協力を賜りました。この場をお借りして、心からお礼申し上げます。 JAA 会長 佐々木甲

## 7. 今後の予定

12月: JAA Meeting - Winter 2015 in Tokyo